

恒久平和



千葉清己 議員

非核・平和のまち宣言の具体化を

平和教育の推進・意識啓発を継続実施

議員 本町は、平成21年12月17日に「栗山町非核・平和のまち宣言」をし、役場敷地内に懸垂幕が掲げられ平和を祈る民間団体の活動を後援するという意義あるものになっている。今年、戦後70年が経過し、平和の大切さを未来に伝えていく活動がますます求められていることから、次についての見解は。

①平成22年第4回定例会2日目（3月9日）の同僚議員の平和教育に関する一般質問で、前教育長は「平和教育のために子どもたちを広島や長崎に派遣することは、今のところ考えていない」と答弁し、5年が経過した現在、その考えはどうか。また、ますます少なくなっている戦争体験者の話を聴く機会を設ける考えはないか。

②8月6日は広島、8月9日は長崎に原爆が投下された日であることから、これらの日を栗山町における「非核・平和を祈る日」として式典を開催する考えはないか。

教育長 ①平和教育は、平和で民主的な国家社会の形成者の育成を目指し、自国や他国の理解を深めるとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うものである。広島、長崎へ中高生を派遣し、原子爆弾の悲劇を学ぶことや戦争体験者からの聴き取り活動は有効な方策の一つと考えている。現在、学校では、戦争の悲惨さを知り、戦争は絶対繰り返さないという意志を子どもたちに育むため、全教育活動を通して平和教育を行っている。今後も地域人材や資源を有効活用し進める。社会教育でも、栗山町在住者の戦争体験の書籍の活用とともに町内の戦争体験者に語り部として活動できるような支援するほか、図書館を会場にした「原爆と人間」のパネル展などの広報活動を推進していく。今後も行政と学校、家庭、地域が連携しながら平和の大切さについて意識の高揚や内容の充実を図っていくことから、子どもたちを広島、長崎に派遣することは考えていない。

町長 平成21年12月「栗山町非核・平和のまち宣言」をし、役場敷地内に懸垂幕を設置して平和



役場敷地内に意識啓発のため設置された懸垂幕

の尊さと平和維持についての意識啓発を行ってきた。また、平成27年は戦後70年・被爆70年の節目となることから、「平和首長会議」の加盟自治体として認定された。町広報には、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の大切さの特集記事を掲載し、今後も継続的に啓発活動に努めていくので「非核・平和を祈る日」の新たな位置付けや式典開催は考えていない。



町長 議員が主導権を取り町民の機運を高めることに期待している。環境が整えば、町としても共催等の参画をしたいと思うが議員の考えは。

議員 実行委員会方式がベストと思う。その中で議論を重ねながら機運を高め、行政と協議したいと思う。

質問は要約されています

議会だよりではスペースの都合上、審議した議案や質問・答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。